

私の日常生活：住について スバドラ・レイ（カナダ）

私はカナダ、アルバータ州のエドモントンに住むシンガポール人です。エドモントンはアルバータ州北部にある州都です。私はエドモントン中心部のアパートに住んでいますが、中心地区を選んだ理由はいろいろあります。第一は、電車やバスなどの公共交通機関が比較的利用しやすいこと。これは、車も持たず運転もしない私にとっては重要なことです。エドモントンの町は広く、都市機能が散在しているので、ほとんどの住民は車を使います。第二に、職場への通勤に便利なこと。私は「Bridge to Canadian Nursing（カナダの介護への架け橋）」という介護プログラムで教鞭を執っているのですが、そのプログラムはエドモントン中心部にある歴史的な建物を改築した建物の中で実施されており、そこまでバスか徒歩（天気が良いければ）で行くことができます。第三に、エドモントン中心部には、公共図書館、スーパーマーケット、書店、ショッピングモール、レストラン、交響楽団、芸術劇場、美術館など、数多くのサービス施設があること。市当局は、エドモントン中心部が市民にとって活気ある魅力的な場所になるよう、活性化に一生懸命取り組んでいます。

アルバータ州の不動産ブームで、エドモントン中心部もマンション建設に沸いています。これによって、カーボン・フットプリントの削減につながる、より集中した生活環境ができてきました。その結果、町の中心地区には、今までにはなかった購買力のある住民層が転入してくるようになり、さらに、その購買層の需要を満たすべく、地元にな数多くの新しいビジネスが生まれました。しかし、中心地区にはまた、多くのホームレスもいます。定まった住居を持たず、路上やシェルターで暮らす人びとです。その多くはゴミ捨て場をあさって、ビンやカン、新聞紙等、換金可能なものを回収することで「収入」を得ています。ホームレスの多くは精神病歴があるか、虐待を受けた経験のある人達です。健康上の理由で働けない人も多く、また、景気悪化によって余儀なくホームレスになった人たちもいます。このような状況が、カナダのような恵まれた国、それもアルバータのような豊かな州に存在するなど想像しがたいことですが、貧困は間違いなく存在し、しかも、エドモントン中心部ほどはっきりと目に見えるところは他に無いほどです。

とりわけ、「互いに与え合う季節」であるクリスマスのような祝祭週間には、いっそう貧困が目に見えるようになります。至るところで商店は、大幅な割引や無料プレゼントで人びとの購買意欲をあおりますが、ぎりぎりの生活をしている者にとっては、この時期はことのほか苦痛です。すべての人がクリスマスを祝うことができるように、エドモントン・フードバンクのような慈善団体などが、市民に寄付を募ります。中心地区の多くの企業がフードバンクに協力し、従業員が団結してフードバンクに保存食品を寄付するのを奨励し、大手スーパーマーケットはクリスマスディナー用に冷凍七面鳥を寄付し

ます。また、ホームレス・シェルターでも、イブやクリスマスに夕食を振舞いますが、これも、熱心なボランティア団体がいるからこそ可能なことです。エドモントン市民がひとつになりその「分かち合い、与える」精神を発揮するのはこういった時期であり、だからこそこの町は暮らすのにすばらしい場所だと思えます。

中心地区に暮らしていて、いいなと思うのは、この場所に満ちている活気です。川沿いを数メートル散歩すれば緑豊かな場所に身を置くことができるような場所でも、都市の便利さの恩恵を受けることができるのです。交響楽団の演奏が聴きたくなれば、バスに乗るだけであつという間にウィンスピーア（センター）に到着します。エドモントンはこのようにコントラストのはっきりした町ですが、コミュニティもしっかり形成されている町でもあります。確かにエドモントン市民は寒さについてよく文句を言いますが、私の思うところ、それは不平というよりも話のタネに過ぎないようです。なぜなら、この町をどう思うかとエドモントン市民に聞いたとすると、おそらく返ってくる答えは「エドモントン以外には住みたくない」というものだと思われるからです。私にとって、エドモントン中心部はアルバータ州の多様性を映し出している場所です。